

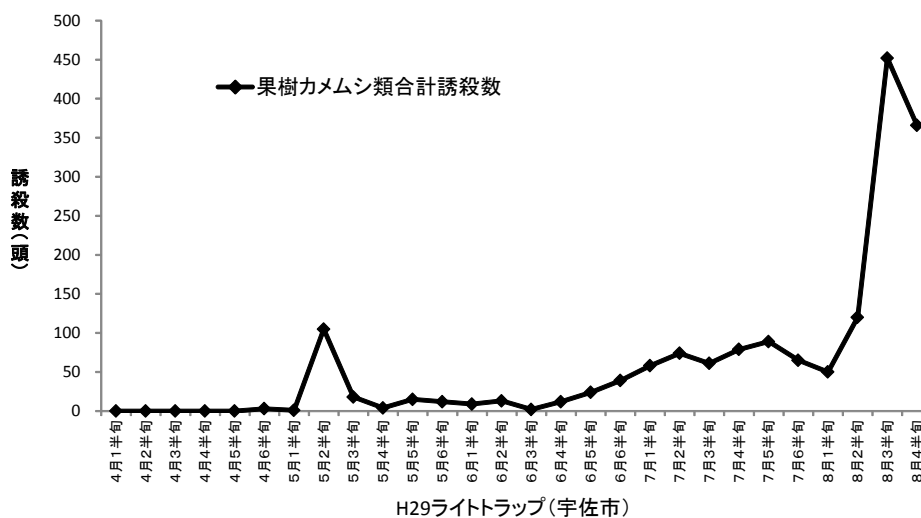
平成29年度 病害虫防除技術情報 第5号

平成29年9月1日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

果樹カメムシ類の発生動向について

果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオメムシ）は、ナシやカンキツ類等の果実に寄生し、吸汁して被害を与える。本年は新世代成虫の発生が多く、特に8月中旬以降は県北部地域でトラップの誘殺数が急に増えたことから、今後果樹園への飛来に十分注意し、早期発見、早期防除に努めることが重要である。

1. ライトトラップへの誘殺数



2. 防除上注意すべき事項

- (1) カメムシ類の園内への飛来は地域や園地により異なるため、園内外をこまめに見回り、園内への多飛来が確認されたら地域ごとに一斉防除を実施する。
- (2) 薬剤散布はカメムシ類が園地に飛来する夕暮れ時に行い、カメムシに直接薬剤がかかるようにする。
- (3) 合成ピレスロイド系殺虫剤の多用は、天敵等への影響が大きく、ハダニ類の発生を助長するので最小限の使用にとどめる。
- (4) 使用薬剤は大分県農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。

病害虫対策チームHPアドレス <http://www.jpnp.ne.jp/oita>

